

取組の柱②：インド太平洋流の課題対処

事例⑱：国際保健

1. 基本的な考え方

● 新型コロナウイルス感染症の世界的流行が示したとおり、今やグローバルヘルスは、経済・社会・安全保障上の大きなリスクを包含する重要課題である。

● 健康・医療分野における共同研究や人材交流を含む国際協力は、人々の健康確保をはじめ、人材の流動、「知」の交流、イノベーションの創出等を生み出し、健康安全保障強化や「強靱、持続可能な社会」を実現するために重要な取組。

⇒インド太平洋における、健康・医療分野における連携・協力による健康安全保障や「強靱、持続可能な社会」の実現を目指す。

2. 具体的な取組

●ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）の達成に向けた、地域の健康安全保障に関する連携、具体的協力を引き続き推進。

●各国における保健財政、ガバナンス、人材、サービス提供、情報の各システム及び医薬品医療機器へのアクセスの強化を通じた包括的な保健システム強化

（例）世界銀行主管のパンデミック基金や、ASEAN感染症対策センターの本格稼働に向けた支援

●感染症サーベイランス、臨床研究・創薬研究基盤や医薬品等生産基盤強化のための資金協力

●ワクチン、治療薬、診断薬など感染症危機対応医薬品等（Medical Countermeasures:MCM）の研究開発、製造、デリバリーを含む公平なアクセス確保に向けた支援

（例）ASEAN感染症対策センターの本格稼働に向けた支援、WHO、Gavi、CEPI、グローバルファンド、GHIT、Unitaid等を通じた支援

●健康・医療分野における国際共同研究の推進

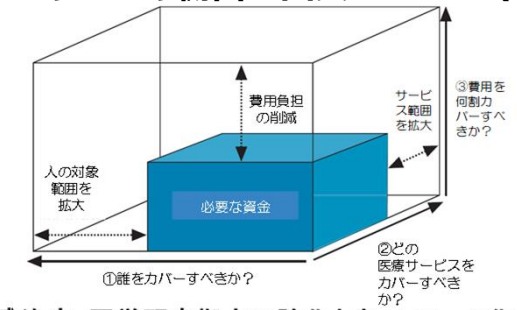
（例）戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）、新興・再興感染症研究基盤創生事業

●国際共同研究や技術協力等の既存の枠組みと連携し、国際的なインテリジェンス集約・分析能力を強化

●MCMの協調した研究開発・調達体制の検討の推進

●アジア・アフリカ健康構想を含む医療の海外展開の推進

UHCの3つの側面 出典：WHO（2010）



感染症・医学研究拠点の強化とネットワーク化



公衆衛生インテリジェンスの集約(例)

